



パネルディスカッション

加藤先生の講演(まとめ1)

- 交通政策基本法＝交通に関する理念を整理
 - 「環境負荷削減」が重要
 - 「低炭素」が世界的にも重要な案件に
 - 化石燃料消費～気候変動が世界安定を危機的に
都市・交通は低炭素でないと生き残れない時代に
 - 自動車依存型の都市・地域は脆弱な体質、脱却には
長い時間・高い費用が必要
 - 技術革新だけでは低炭素の実現は困難
 - 交通からのCO2削減は実は難しい
 - ＝ 低炭素な交通手段への転換、移動をやめることを自然とできるか
- * 地方＝渋滞しないので、CO2は車が低く公共交通は高い

加藤先生の講演(まとめ2)

- 都市構造の転換が必要(「串とお団子」)
 - ある程度「まとめる」ことを政策的に誘導できるか
都市・交通は低炭素でないと生き残れない時代に
 - とはいってもちゃんと「乗りたい」「乗ってくれる」ものができないとダメ
 - 「わからない」では話にならない ← 目が肥えている
追い風の時代なのに「増加」が珍しい？
真剣に考える地域・事業者と、仕組みの活用が必要
お金は必要なところかけないとダメ(人、サービス)
 - ⇒ 地域全体で負担する仕組みにできるか？
(保険の考え方)
- ※人、お金、心、口すべて負担(全主体が責任を)

土屋社長の講演(まとめ)

- 鉄道の廃止⇒バス代替⇒乗客が減少(3割へ)
 - 道路網の問題 → 廃線敷を活用したBRTへ
 - パートナーシップ協定
 - 住民と事業者間(市は支援に回る)
 - 団地の高齢化: 市街地へのアクセスが課題
 - コミュニティが発達→交通への意識共有化
 - 行政と事業者も連携が密
 - 利用者の増加に繋がった地域も
 - BRTの利用促進の取り組み
 - サポーターズクラブ
 - 車両デザインや施設等のデザインも工夫
 - 運行管理システム、環境負荷低減の停留所など
 - 需要への対応(定期販売、増便、イベント)
- ◎健康で生き生きと暮らせるまち+自家用車に頼らない自立した暮らし、を交通でサポート(そのためのBRT・バスの活用)

清水副本部長の講演(まとめ)

- **自治体・地域と連携してPDCAを回す仕組みが必要**
(+まちづくり、ビジネスモデル的視点の参画も必要)

旅客数は近年増加(ピークの半分)、ただ収入が減少
高速料金割引、社会構造変化など外生的要因の影響

- **各地での実験・実証的取組み**

＝実は地域公共交通会議をフル活用、こんなこともやれる見本

沿線の病院・大学・商店街との連携、広告協賛

自治体負担で乗車券、健康教室との連携

あえて運賃を値上げ(美和台、賀茂)

幹線と支線の分割(電車乗り継ぎ、定時性確保、インセンティブ)

事業者の提案も(回送の活用、工夫等で経費をカバー、営業)

◎実験・営業など試行錯誤で継続を探る努力は事業者の財産に!

講演のまとめ

- **問題**が何か認識しているのか?
- **使えるもの**をきちんと使っているのか?
- **やるべきこと**をきちんとやっているのか?
- **誰がアクター(プレイヤー)**でいるのか?



これらをきちんとわかったうえで、

すべての人が、使えるものを使って、

固定観念にとらわれず動けば、

実は明日からでもできることばかり(今でしょ!)

パネルディスカッション総括①(話題提供)

- バスロケ:お客様の不満解消+事業の改善
- まちづくりとの一体化: 滞在時間を延ばすための回遊性確保=バスの活用(生活路線をわかりやすく観光路線化)
→ プラス効果に
- 大分市でもバス利用は減少
→ MM(小学生向け)、ワンコインバス
不便地域「ふれあい交通」と地域検討会
- 中心市街地の整備・活性化プロジェクト展開中
→ 車線減少・乗り場集約の効果
- 本当に公共交通に転換してくれるのか?
利用しない人とのコミュニケーション(自家用車との比較)
いつか利用する、は本当に使ってくれるのか?
要望をどう実践につなげるか(バスに何を求めているのか?)
生活スタイルを行政が支援できるか(楽しむ価値観があるのか)

パネルディスカッション総括①(話題提供)

- 使ってみると意外に快適だ
コミュニケーションの場になる、世相が見える
- 情報発信が大事では?
過去1年間で新聞記事数=27+事故22+他22
← 大分市の分はほとんどない
- 365日バスを使う立場から見ると・・・
交通機関との話は初めて・・・
= 本当にまちづくりと交通はつながっているのか
高齢者利用(低床バスの要望)、循環バス(回遊性確保)
こんな都市規模でなぜこれほど渋滞が起きるのか?
→ マイカーで渋滞が起きる
自主的なパークアンドライドを実践している(商業施設)
健康づくり・事故防止の面からバスに転換させる方向は?

パネルディスカッション総括①(話題提供)

- いつか乗る、は絶対乗らない
- 要望は需要につながらない(本当に必要なら掴み取る)
- ないから埋めるのではなく行きたいから走らせる
メッセージがほしい(こんなことができる。行ける。)
使う人との共有化をはかるべき
- 気づいていないところに需要の可能性はある
素人といろいろな話をしてニーズ把握してほしい
アンケートは気づいている内容しか出ない
= ひざ詰めですべき
※ 需要とニーズの違い = 顕在化 OR 潜在
⇒ ニーズ(潜在)を埋めることが増加に繋がる
(気づいていない OR あきらめている)

パネルディスカッション総括③ お題1

- 少子高齢化は当たり前=需給ギャップが著しい
⇒ そうとしても公共交通がどれだけ担っている?
…最初からあきらめて取り組まないからでは?
- 多数決理論=道路、の世論形成とそれに流される行政(仕方ない?)
- 「人から見られる」「コミュニケーションをとる」という魅力がなくなっている(家庭環境?)
- 利用者への優遇措置(新しい取り組みをするのにパフォーマンスが悪くなるのはなぜ?)
プリペイドカード→ICカード:お得感が消えた
- スタッフ(運転手・事業者)の接客意識
営業マインド、接客、サービスの多様化、売込み?
- 利用者側の知恵(催す側の工夫も必要)
催し物と公共交通の連携(インセンティブ)があるか
- 情報の「見せ方」(ノンステップバスか「床が低く乗りやすいか」)
- 「わくわく感」と「らくらく感」があるか(乗る以前のバリア)

パネルディスカッション総括③お題2

- まず自分で実行する(車を避けさせる仕掛けを声かけ×誘導)
- バス会社と行政の連携
ニーズや利用に合わせた柔軟な対応(ダイヤ、ルート)
「気づき」の実践
地域に投げる、よろこびをつくりだす
- 中心市街地活性化をいきっかけに
- 「何かがないとできない」から「できることから徹底的にやる」を実践する
- 本当の利用者の声を、意識を持ってきいていく
- 「背景」が変わったのに独善的になっていた各主体(事業者、利用者)を変えること

パネルディスカッション総括③

- 使う前の「くすぐり」が大分には不足しているのか？(「楽しさ」の前に「不安」「不満」が多い)
→ その「くすぐり」を一緒に考える仕掛けを作りましょう！
一回くすぐって「できる」になれば好循環になります
- アクターはいるが演出家がない
→ 「産・官」だけでなく「学・共」も使えませんか？
眠っている力を呼び起こしてほしい
- 失敗を恐れずにやってみる勇気、その行動
→ 法律、制度、前例、事例の言い訳はやめませんか？
3つのマ(「テマ」・「ヒマ」・「オジャマ」)の実践
「遅延」交通から「地縁」(・支援・応援)交通へ